

五峡の子

学校だより 9月号
荒川区立第五峡田小学校
校長 出井 玲子
令和4年9月1日(木)
TEL 3892-9515
五峡小ホームページ

<http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/DAI5HAKETA-E/>

【学校教育目標】 「かしこい子」 「やさしい子」 「たくましい子」

「学びに向かう力」

校長 出井 玲子



行動制限がなかったとはいえ、感染症予防に努めながら過ごした夏休みとなったことと思います。保護者・地域の皆様には、この間の見守りをいただきありがとうございました。

8月4日(木)～6日(土)は、4年生の下田臨海学園でした。初めての宿泊行事とは思えない程、みんなで協力して行動でき、海では波しぶきいっぱい遊泳を楽しみました。お世話になった方へのあいさつ、海岸までの道を互いに声を掛け合って歩く姿、誰もが責任をもって行った係の仕事、体験活動の楽しさと大変さを実感しながら成長できた行事でした。参加できなかった友達に「はがき」を送るなど思いやりが光る場面もありました。他にも区内小学校6年生対象のワールドスクールに本校は4人参加しました。前後半の水泳教室や学習教室で子供たちに会う度に2学期スタートを待ち侘びておりました。

さて、本校では、学力調査の分析を基にして「学びに向かう力」の育成を図っております。本号の裏面「校内研究」に詳しく掲載しておりますのでご覧ください。「学びに向かう力」は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」と合わせて、学力の3つの柱とされています。「学びに向かう力」は、他の2つの柱に比べて具体的にどんなことをするのが分かりにくい柱かもしれません。そこで、ここでは「学びに向かう力」に係る学力調査の具体を例に、学校で取り組んでいることをお伝えします。

例えば、東京都の学力調査の項目、国語の学習の進め方に「漢字を何度も繰り返し書いて覚えている」というものがあります。これに対し、本校4年生児童の解答は「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると83%であり、東京都全体の結果79%を上回ります。しかし、「漢字・よみがなの問題」の正答にはやや課題が見られます。この結果から教職員で授業改善について話し合いました。そこでは、「繰り返し学習だけではなく、部首の意味を考えながら行う学習が必要ですね」「他教科や生活場面での漢字とのふれあいをもたせよう」「子供たち自身が他との関連を見つけ出す場面も設定しよう」などの意見が出ました。

上記は一例ですが、「知識・技能を他の学習や生活場面に関連させて学びを広げること」「児童同士の話し合いを通して相互の学びを深めること」「読書や調べ学習などを通して学びを楽しみ深めること」を推進し、繰り返し学習の効果を高めて参ります。

読書や学んだ知識・技能を生活の場面に生かすことなどは、ご家庭での実践が生きてきます。「学びに向かう力」の育成に向けて学校の取組にご協力いただけましたら幸いです。